

社会化

Social
Involvement

7



カイロプラクティックを正しく社会に浸透させる努力

カイロプラクティックを世に正しく広めることは言うほど容易でない。世間はカイロがどういうもので、何が正しいカイロかを知らたがる一方、業界側がそれを提示しない限り、似て非なるものがカイロプラクティックと称して流布されてしまう。容易でないと言ったのは、カイロに対する業界内のコンセンサスが確立していなかったことだ。

しかし、70年代後半より、カイロの名が広まるにつれ、社会は「カイロとは何か」を業界に求めるようになる。JCAは、1978年に一般向けカイロの定義を次のように決めた。

「カイロプラクティックとは骨格の歪みを手技によって矯正し、神経生理機能を回復し、健康を増進させようとする、アメリカに生れヨーロッパや日本に普及した治療法である。この治療を行なう人をカイロプラクターと呼ぶ」。

自分たちのアイデンティティを定めたことは、会内教育の目標と推進力の弾みとなった。さらに1985年には、JCAの新しい基本理念としてカイロプラクティックの国際化、科学化、社会化の三本柱を決める。新しいコンセプトの誕生だった。

特に社会化は、内向き指向の業界にあって、社会に向かって外向きに、いかに上手にカイロの情報を発信するか、前人未踏のチャレンジであった。それにはまず我々カイロプラクターが社会に受け入れられなければならない。それこそが「社会化」の第一歩であった。

社会化といえば、マスメディアを通じてのPRを連想するが、実はもっと地味で大切なことがある。カイロの正しい説明文を市販の辞典や辞書に掲載してもらう企画である。その成果があつて1985年版「現代用語の基礎知識」にはJCAの定義が初めて掲載された。JCAは記者

会見、ヘルスケア展示、健康フォーラム、保険会社説明会、公益事業への助成金などカイロと社会の接点を広げる努力を積極的に行なった。その結果、マスメディアには好意的に取り上げられた。カイロプラクターが治療効果を挙げるのは当然で、ヘルスケアの分野でいかにカイロが社会的に貢献できるかの証明は是非必要なPRであった。

カイロプラクティックを正しく社会に浸透させる努力に終りはない。善意でも誤解があり、良いものほど悪用され易く、新しいものほど偏見と排除にさらされる。カイロも例外ではない。そのために各国では制度化を図るが、日本のような既得権社会ではそれすら容易でない。社会化は、今後のカイロプラクティックにとって大きな課題として残ろうとしている。

Professional PR: How can Chiropractic be Introduced to the Public ?

In today's society it is not difficult to promote something, for there are plenty of media that make it possible. However, to promote something properly is a different story. Legislation is essential to protect the good from the bad, and so the non-legal status of chiropractic in Japan has provided a good opportunity to those who wish to take advantage of chiropractic in this situation. Over the decades, many questionable "chiropractic" entrepreneurs and proprietary schools have flourished and even dominated the market. This has placed the good image of chiropractic in jeopardy.

Under these circumstances, the JCA thought it necessary to formulate a strategy to promote a proper public image of chiropractic. This program was initiated in the early 1980's under the theme of "social involvement".

The JCA officially adopted a definition of

chiropractic which was similar to that of the American Chiropractic Association. The next step was to approach publishers to encourage them to use this definition. Up until that time, third party explanations of chiropractic were grossly mistaken. The JCA has extended its social involvement through such activities as press interviews, participation in health care exhibitions, and sponsorship of its own Healthcare Forum. The JCA has given seminars to the accident insurance companies to insure the proper understanding of chiropractic. The JCA has extended its programs to include fund raising for the Red Cross and the disabled. All of these efforts have been reported appropriately in the newsmedia.

Chiropractic can only survive as long as it has the acceptance of society, and so obviously there can be no end to our efforts.

初のカイロ記者会見 Nov. 1979

Press Interview



カイロプラクティックについて熱心な質問があった

1979年11月28日、東京赤坂のホテルニューオータニでカイロプラクティックを説明する記者会見が行なわれた。主催者はJCAで、成田ビューホテルで開かれた国際セミナーのため来日したドクター・ステーツを開む形で進化した。

出席したマスコミ関係者は、日本経済新聞社、サンケイ新聞社、朝日イブニングニュース社、週間文春、婦人生活、科学新聞、デイリースポーツ社、時事通信社、共同通信社などから10名。カイロプラクティックの説明、現状と今後の役割



Dr. ステーツによるカイロの分かり易い説明

について解説と質疑がまじ合わされた。

JCA側からは竹谷内一恵会長、佐藤健造セミナー実行委員長、竹谷内宏明教育委員長らが出席、日本におけるカイロの実情説明とマスコミを通じて正しいカイロの紹介をお願いした。

藤井尚治先生に感謝する「保存会」を有志が開く Jan. 1981

カイロプラクティック社会化の功労者として第一に内科医、藤井尚治（ふじい・なおはる）先生を挙げねばならない。専門のストレス研究とカイロに接点を見出し、カイロとのおつきあいは45年になる。その間、閉鎖的なカイロ業界を出版界、保険業界、医学界など社会に紹介しただけでなく、常に親身になって相談相手になって下さった。1976年にJCAの名誉会長に、81年には先生の激励会、83年にはナショナル大学より名誉博士号が授与された。藤井先生は銀座内科院長のかたわら、1971年にストレスの財団を設立、医薬研究でも業績を残され、30数冊の著書をもつ博識家でもある。日本では数少ないカイロを真に理解する医師で、日本のカイロ業界にとって至宝といえる存在だ。1997年没。

There is a person to whom Japanese chiropractic will forever be indebted. His name is Naoharu Fujii, M.D.. He is well known as a developer and researcher of stress theory, and he has been a staunch supporter of chiropractic for over 45 years. He has written many books and articles in support of chiropractic, and he has given many lectures. He has acted as a bridge between chiropractic and publishing companies, insurance companies, the news media and even the medical community. For his honorable and courageous support, the National College of Chiropractic bestowed upon him an honorary degree of law in 1983.



▲ナショナル大学は藤井先生の長年のカイロへの貢献に名誉法学博士号を授与。1983年4月

◀保存会 1981年1月24日
新宿ニューシティホテル

ヘルスケア・ビジネス展 1987 会場 マイドームおおさか

Chiropractic Booth at Health Care Exhibition in Osaka



In september 1987, there was a Health Communication '87 in My Dome Osaka. The three day event attracted 100 exhibitors and 20,000 people. JCA prepared the booth with chiropractic posters, pamphlets and demonstrators.

平和が続き、暮らしが豊かになると国民の健康、不老長寿への希望がふくらむ。そんなタイミングをとらえて、日本経済新聞社・テレビ朝日が主催するヘルスコミュニケーション'87が9月12日から3日間、新築になったマイドーム大阪で盛大に開かれた。会場には最新の健康増進器、医療情報システム、ヘルスケアビジネスなど約百社が集まり、終日賑わった。

その中でもひとときわ参加者の注目を浴びたのがJCAから参加したカイロプラクティックPRコーナー。大勢のJCA役員・ボランティアが協力してマンツーマンの説明と実演に通りがかりの人は予想以上の反応を示した。質問する人、診断と治療を求める多くの人に関係者は大奮闘。カイロへの関心の高さと同時にカイロまがいへの誤解も少なくなく、参加

は有意義だったが、今後に宿題が残された。カイロプラクティックの正しいPRの試みは2年後の健康フォーラム開催へと続く。



3日間のヘルコ

ミ参加は巷の生の声を聞く絶好の機会だった。見学者に話しかけ、デモンストレーションや説明を行なった結果得たおもやかな印象は次のようなものだった。

- なんらかの形でカイロを知っている人は約3割。残りは始めて聞く言葉であるか、あるいは全く誤った認識をしている。
- 知っていると言った人のうち、本当の意味で理解しているのは1割程。あとはカイロを聞いたことがある、看板を見たことがある等、治療を受けたことはないが、その存在を少しでも知っている人である。

カイロを説明するため沢山のパンフレットを用意して配ったが、最も効果的なのはデモンストレーションであった。治療とは異なり、短時間で不十分な点もあったが、指圧や整骨と異なる認識は得られたよう。実際のデモや相談を受けた人数は3日間で実に223人、カイロへの高い関心を示す数字と見ていだろう。



第1回健康フォーラム 1989 会場 金沢市観光会館

1st Health care Forum Kanazawa November 4, 1989

Trial of Effective Public Relations

「現代社会を健康で生きぬくために」

How To Live Healthy in Modern Days

神津カンナ氏がゲスト

健康フォーラムでのカイロプラクティックPRは、カイロそのものを売るのでなく、カイロ業界が現代社会における健康という問題について真剣に取り組もうとしているその姿（イメージ）をうりこむことであった。健康に対する市民の意識の高まりをつかみ、いかに嫌味なくカ

イロを啓蒙するか実行委員は腐心した。初めて知名度ある有名人を招き、健康講演、パネリストとの対話形式で「現代社会を健康で生きぬくために」を語り、2部では会場の意見や質問を交えて活発な意見交換を行なった。



◀マスメディアはカイロに関心を示した



Famous essayist, Kanna Kozu was a principal guest speaker
神津カンナ女史は中村メイコさんの長女。
軽快なエッセイストとして広く活躍中。



富山大学教授
同大学教育学部長
山地 啓司

Professor Yamachi of Toyama University
Talks at Health Care Forum

情報に流されず健康管理を

臨牀カイロプラクティック学会学術大会
公開フォーラム

市観光会館

三日月、金沢市観光会館をたがひつづけて、会場に集った。午後、会場から戻った。カイロプラクティックは、一般市民の健康に役立つ。カイロプラクティックは、一般市民の健康に役立つ。カイロプラクティックは、一般市民の健康に役立つ。

11月4日(土曜日)

腰痛をテーマに

カイロプラクティック 大会会場

北陸中日新聞

腰痛をテーマに、カイロプラクティック大会が開催された。腰痛は、現代社会の健康問題の一つ。腰痛をテーマに、カイロプラクティック大会が開催された。腰痛は、現代社会の健康問題の一つ。



半田玲子(金沢女子大講師—トランポリン全日本選手権者)

第2回健康フォーラム 1990

会場 富山県教育文化会館

2nd Healthcare Forum Toyama September 8, 1990 For Healthy Human Life



主催／臨床カイロプラクティック学会・
日本カイロプラクティック総連盟
後援／北日本放送・北日本新聞社・社会
福祉法人富山県社会福祉協議会・
社団法人富山県善意銀行

健康フォーラムはJCAのカイロ社会化
そのものだった。前年の反省を生かし、い
かに健康とカイロを結びつけるか再度のチ
ャレンジ。健康フォーラムのコンセプトは
健康の意義（安心、喜び、美しさ、動き）
を追及する企画に徹した。ゲストは健康的
なイメージの強い森田健作さん。パネラー
は運動生理学の山地啓司氏、小出弘夫氏、
村上佳弘氏。三遊亭良楽さんは笑いの中に
健康を見出す試みであった。コーディネー
ターは話力研究所の吉友嘉久子さん。



Famous actor, Kensaku Morita was a special
guest speaker.

◀森田健作氏が 特別ゲスト



財モロロジー研究所社会教育講師
小出 弘夫



第3回健康フォーラム 1991 会場 鹿児島市民文化ホール

3rd Healthcare Forum Kagoshima November 5, 1991

テーマ：働く女性の健康



ザ・アメリカンスーパーシェイプの皆さんによる健康美



パネリスト 近藤重和先生

渡辺美佐子氏をゲストに

Famous actress, Misako Watanabe was a special guest speaker.



「女優はからだが資本」



パネリスト 古江マチコ先生



「コミュニケーション」と「日頃のシェイプアップ」について、楽しく話す貴婦人学校のバーバラ植村さん。

▼会場には9百名の一般市民が集まる

3回目を迎えた健康フォーラムは、カイロプラクティックの社会化を考え、新たなる独自の企画をもってテレビや新聞等マスメディアへのアプローチを試みた。

今回は特に、ふだん疲れがたまっている主婦を対象に、無料「姿勢の健康チェック」を実施。大勢の人々がJCA認定カイロプラクターの姿勢検査のサービスを受けた。短時間で大勢を、中には家族ぐるみでの姿勢チェックと説明。その模様は夕方のMBCテレビニュースによって放映された。

健康フォーラムは「働く女性の健康」というテーマを掲げ、有名スター渡辺美佐子さん、バーバラ植村さんはじめ多くの女性が女優・若さや健康について講演。女性ボディビルダーの輝かしい肉体美やパネリストらの心の健康の話しと多彩。テーマへの関心の高さを示すように市内から集まった大勢の一般参加者は九百名入る席をうめつくし、会場は熱気に包まれた。



保険会社を対象にカイロの説明会 1991

Chiropractic and Insurance Seminar : Another Important Public Relations

JCAはパシフィック・アジア・カイロ協会と協力して、自動車保険査定担当者を対象にしたカイロプラクティック・インシュランスセミナーを東京と大阪の2カ所で開催した。

近年、自動車保険、傷害保険などでカイロプラクティック治療を求め来院する人が増加している。しかし、保険会社査定担当者のカイロに関する知識不足からトラブルケースも少なくない。

講師の分かり易い説明とデモンストレーションが好評で、質疑応答も活発だった。業界紙「保険毎日新聞」(5万部発行)も大きく取り上げ、保険業界のカイロ認識向上に役立った。

1991.4 東京 TOKYO



1991.10 大阪 OSAKA



保険毎日新聞 1991年(平成3年)5月17日

査定担当者対象にセミナー開く

日本カイロプラクティック協会連合会

“カイロ”の正しい理解求める

現状と問題点を解説、実技も披露

日頃何となく誤解されることが多いカイロプラクティック療法について、保険会社とその実態を正しく理解してもらうという「インシュアランス・カイロプラクティック・セミナー」が四月二十五日午後一時三〇分から五時まで東京・浜松町のチサンホテルで開かれた。主催はカイロ治療の大手三団体で構成する日本カイロプラクティック協会連合会(JFC、竹谷内一憲会長)。当日は損保会社・共済の査定担当者六十三人が参加した。

社会の複雑化から来るストレスのためか、慢性的な腰痛等が増加。こうした一般へのPR活動を行って、腰病等に悩む人が増加する。関係者の起こした事故が大きい。

中、新しい治療法として注目を集めている。カイロは危険、とのイメージが根深い。一般には、カイロは危険、とのイメージが根深い。一般には、カイロは危険、とのイメージが根深い。一般には、カイロは危険、とのイメージが根深い。

また、日本ではまだ法制化されていないため健康保険の対象とならず、資格制、アジア・カイロプラクティック協会、東京ストレス内一憲JFC会長が「日本講義と実技を行った。この中で竹谷内氏は、鞭打り損傷とカイロの発展に向かい、今後の関係をよりよくしていく」と述べた。

また、日本ではまだ法制化されていないため健康保険の対象とならず、資格制、アジア・カイロプラクティック協会、東京ストレス内一憲JFC会長が「日本講義と実技を行った。この中で竹谷内氏は、鞭打り損傷とカイロの発展に向かい、今後の関係をよりよくしていく」と述べた。

「カイロ」の正しい理解を求める。現状と問題点を解説、実技も披露。カイロの特徴を「人間の体をトータルで見よう」という考え方にあり、強調しながらその理論を解説するとともに、日本のカイロ業界の抱える問題として医師会等の反対もあつて法制化が難しいと、そのため現在はいわば放任状態となっており、教育制度の不備などからカイロの質が玉石混じりとなつている点を指摘。今後は業界として自己規制を行ない、市民へのPRに力を入れ、「秩序ある業界を目指す」と述べた。